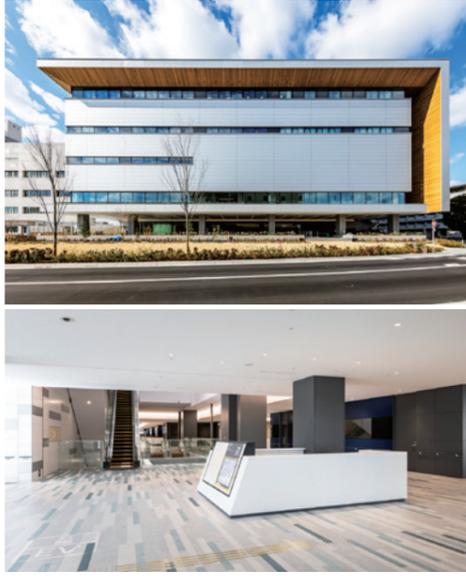


入院前支援強化します

患者包括サポートセンターで個別相談

統合診療棟が5月7日オープン



写真①統合診療棟前景①1階 エントランスホール

2025年5月7日に開院を予定している統合診療棟では、入院予定の患者さんに安心して入院していただくための「入院前支援」の機能強化を予定しています。また、外来診療機能がほぼ全面的に移転します。

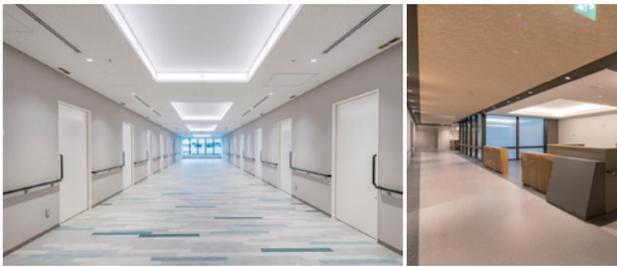
本院の中央診療施設である「患者包括サポートセンター」は、入院支援部門、地域連携部門、患者相談部門の3部門があります。それぞれ専門的業務を行うとともに、機動的に部門間の連携をとおして活動しています。統合診療棟開院からは特に、入院前の患者さんへの支援および入院してから退院するまでの支援を行う入院支援部門を強化しています。

入院前支援では、入院を予定している患者さんが、入院生活や入院後どのような治療過程を経るのかをイメージし、安心して入院診療を受け

ていただけるように、入院前から多職種で支援します。入院前に外来診療を受診された際などに、原則として、統合診療棟1階の患者包括サポートセンター窓口で入院前支援の予約をとることが出来ます。予約日時に、患者包括サポートセンターの相談室で看護師が面談を行います。面談内容は、検査・治療の説明▽患者情報・使用中の薬剤の確認▽リスクアセスメントの確認▽入院生活についての説明▽患者さんご意向や困りごとの確認(仕事や子どもの事情、医療費など)――等です。また、薬剤師や医療ソーシャル

ワーカー(MSW)等による面談、入院前の歯科受診の予約、管理栄養士による栄養指導なども行います。これらをまとめて入院前支援と呼んでいます。

この入院前支援を通じて、患者さんご自身が不安に思っていることや疑問点を解消して、安心して入院していただくようになります。医師にとっては、入院日までに患者さんの内服状況、歯科受診状況などを確認して入院後の治療計画を立てることが出来ます。また病棟看護師は、患者さんの日常生活動作(ADL)や、入院後も継続する処置やケアの内容、ご家族の支援態勢などを事前に把握することにより、入院患者さんに寄り添ったケアが可能になります。医療従事者にとっても大きなメリットがあります。



写真②2階 外来診察室②5階 総合周産期母子医療センター

従来、多くの患者さんへ入院前支援を受けていただくために、相談を行う看護師の充実と、支援を行う相談室の確保が課題となっていました。統合診療棟開院後は相談室数を大幅に増やすとともに、機能的に相談が行えるように部屋の配置の工夫を行っています。

再診受付は再来受付機で、再診受付機で受け付けしていただきます。予約ありの患者さんは、再来受付機から発行される「診察室番号」「診察呼出番号」が印字された「受付票」を受け取り、「診察室番号」近くの診察室付近でお待ちください。予約なしの患者さんは、再来受付機が発行した「受付票」に指定されたブロック受付にお越しください。呼び出しは「診察呼出番号」のご案内になります。なお、採血、会計の呼び出しは別番号です。

マスク着用をお願い

私たちの隣にとても感染症に弱い方がおられます。マスクの着用をお願いいたします。この病院では、病室や治療により免疫力が落ちた方が多くおられます。待合室でのあなたの隣に、向かいの患者さんがそうかもしれません。少しでも正しいマスク着用によりウイルス拡散の可能性を下げてくださいますようお願いいたします。

新型コロナウイルス感染症対策としてのマスクの着用の考え方が見直され、令和5年3月13日からマスクの着用については屋内・屋外にかかわらず個人の判断に委ねられることになりました。ただし、病院や高齢者施設など、重症化リスクの高い高齢者や基礎疾患のある人が周囲にいるときには、普段よりも感染を広げないための配慮が必要です。厚生労働省も病院や高齢者施設についてはマスク着用の推奨を継続しており、本院でも当面の間は院内のスタッフ、患者さん、ご家族など全ての方にマスク着用をお願いしております。社会が感染対策の緩和に向かう中でマスクの着用についても、個人の考え方を尊重すべき段階に来ていますが、病院内は感染すると重症化しやすい方が多くいらっしゃるため、引き続きのマスク着用にご協力をお願いいたします。

再診受付は再来受付機で

患者支援アプリご利用おすすめ

2025年5月7日から統合診療棟が開院し、外来受診の流れが変わります。各外来診察室は統合診療棟の地上1〜2階を中心に配置し、数カ所のブロック受付を設置しています。眼科外来(アイセンター)は地上6階に配置します。産科外来総合周産期母子医療センターは地上5階になります。婦人科外来は地上2階です。

再来受付機で受け付けしていただきます。予約ありの患者さんは、再来受付機から発行される「診察室番号」「診察呼出番号」が印字された「受付票」を受け取り、「診察室番号」近くの診察室付近でお待ちください。予約なしの患者さんは、再来受付機が発行した「受付票」に指定されたブロック受付にお越しください。呼び出しは「診察呼出番号」のご案内になります。なお、採血、会計の呼び出しは別番号です。



患者さんには、阪大病院の「患者支援アプリ」のインストールをおすすめしています。アプリをインストールしていただくことで、再来受付機に並ばずアプリ上で診察受け付けができるようになります。また、診察後、診察室から計算窓口に寄らずに直接帰宅できます。このほか、アプリに保存された院外処方箋のデータから調剤薬局への送信が可能になります。また、領収書、診療明細書の控えがPDFで保存できます。患者さんに院内各所で多くの待ち時間をお願いしておりますが、アプリをインストールしていただければ、待ち時間を有効活用することができますので、ぜひ患者支援アプリをご活用ください。

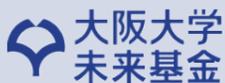
統合診療棟のおもな外来の配置

(外来受付、外来診察室が移転します。変更が生じることがありますのでご了承ください)

6階	アイセンター(眼科)
5階	総合周産期母子医療センター
4階	ICUの一部(集中治療部)の病棟機能も移転
2階	1階・5階・6階以外の診療科
1階	整形外科、免疫内科(リウマチのみ)
	耳鼻咽喉科・頭頸部外科
	脳神経内科(5/6まで神経内科・脳卒中科)、脳神経外科 麻酔科、神経科・精神科、子どものこころ診療センター

病院再開発基金へのご寄附のお願い

本院は、良質な医療を提供すると共に、医療人の育成と医療の発展に貢献するという使命を果たすべく、令和7年春の運用開始を目指し病院再開発事業を行っています。本事業には大学病院でしかできない臨床医学研究・開発など将来の医療に必要な部門の整備も含まれています。診療機能・未来への医学の研究開発機能のさらなる充実を図るため、今般、「大阪大学医学部附属病院再開発基金」を、大阪大学未来基金に立ち上げました。再開発のコンセプトは、「Futurability待ち遠しくなる未来へ。」です。何卒、本事業の趣旨にご賛同いただき、ご支援を賜りますようお願いいたします。



詳しくはこちらをご覧ください



- 4/26(土)~5/6(火)は、原則、全病棟での面会をお控え願います。
- やむを得ない事由がある場合は、13時~18時の間で面会願います。
- 患者さんの移送を行うため、5/4(日)は、全病棟での面会をご遠慮ください。

2025年(令和7年)						
日	月	火	水	木	金	土
4/20	21	22	23	24	25	26
通常通り面会可能						面会をお控え願います
27	28	29 昭和の日	30	5/1	2	3 憲法記念日
面会をお控え願います						
4 みどりの日	5 こどもの日	6 振替休日	7	8	9	10
面会をお控え願います		通常通り面会可能				

患者移送日: 5/4(日) ※全病棟での面会をご遠慮ください
移送対象部門: 西7階 眼科、東西4階 集中治療部、西3階 総合周産期母子医療センター

統合診療棟へ患者さん移送

GW中の面会はお控えください

本院の外来・中診療および一部の病棟は、新棟「統合診療棟」に移転します。4月26日(土)~5月6日(火)は、物品の移送を行い、5月4日(日)は、患者さんの移送を行います。患者移送対象部門は▽西7階 眼科▽東西4階 集中治療部▽西3階 総合周産期母子医療センターです。安全で円滑な移送・移送作業を行うため、左記のとおり面会をお控え願います。皆さまにはご迷惑をおかけいたしますが、ご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

令和6年度

患者満足度調査

結果発表

外来患者さん、入院患者さんを対象とした満足度調査にご協力をいただき、ありがとうございました。調査結果をご報告いたします。

調査期間

外来 令和6年8月26日～8月30日の5日間
入院 令和6年10月1日～10月21日の21日間

調査結果

外来患者さんの88.9%、入院患者さんの92.7%の方に、「満足」「やや満足」のご回答をいただきました。満足度の低い項目は、外来では「駐車場の広さや台数等」「検査開始までの待ち時間」、入院では「個室料金」「リハビリに使用する設備や器具」でした。

これからも患者さんにとって心地よく、治療に専念できる環境を整えていくため、より多くの患者さんにご意見を伺いたいと思っておりますので、今後ともご協力のほどよろしくお願いいたします。

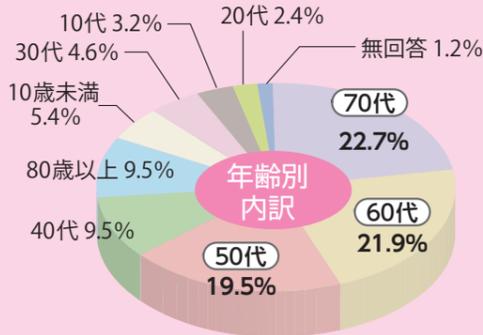


入院患者さん

満足

平均 **92.7%**

(回答数=497)



入院患者さん 満足度ランキング

※小数点以下四捨五入

ベスト5	
1位	リハビリ職員の説明や態度、言葉遣い 100%
2位	職員の身だしなみ 99.6%
3位	本人確認を行い間違いなく伝えられている 99.4%
4位	検査室はきれいで、整理整頓されている 98.4%
5位	検査に関わる職員の説明や態度、言葉遣い 98.4%

ワースト5	
1位	携帯電話やインターネットの使用における不便 76.1%
2位	トイレや浴室の数、清潔さや快適性 76.5%
3位	エレベーターや廊下、手すりなどの使い勝手 77.1%
4位	外来で入院が決まってから入院日までの期間 82.8%
5位	①番窓口やご意見箱の設置場所の分かりやすさ 84.3%

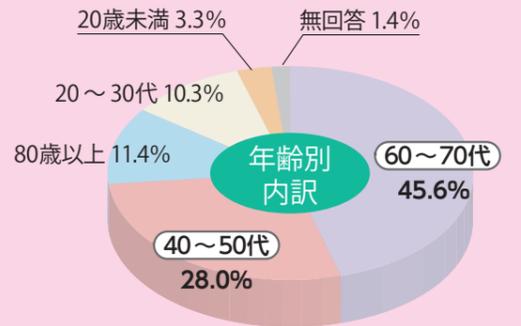


外来患者さん

満足

平均 **88.9%**

(回答数=2175)



外来患者さん 満足度ランキング

※小数点以下四捨五入

ベスト5	
1位	看護師の態度や言葉遣い 97.9%
2位	診察室は清潔かつ、整理整頓されている 97.7%
3位	禁煙対策の徹底 97.1%
4位	医師の態度や言葉遣い 97.1%
5位	技師の態度や言葉遣い 97.0%

ワースト5	
1位	駐車場の広さや台数等利用のしやすさ 39.7%
2位	受付から診察までの待ち時間 60.3%
3位	⑤番窓口から支払終了までの待ち時間 64.0%
4位	受付から診察までのお知らせや声掛けの配慮 77.0%
5位	⑤番窓口から支払終了までのお知らせや声掛けの配慮 77.1%

具体的なコメント例 / 入院患者さん

- 良い先生に出会えて嬉しい。
- 医師・看護師の皆様には大変丁寧に良くしていただきました。
- 温かく見守ってくださったスタッフの皆様感謝しています。
- 快適な入院生活を過ごすことができ大変満足しております。
- 食事がとても美味しかったです。



- ◆ インターネットのつながりが悪い。回線環境を良くしてほしい。
- ◆ 駐車場の台数が少なく、予約に遅れることがある。
- ◆ トイレ・お風呂がきれいじゃない。
- ◆ エレベーターの待ち時間が長い。
- ◆ 入院決定日の通知をもう少し早くしてほしい。

具体的なコメント例 / 外来患者さん

- 医師・看護師は献身的に治療してくださいました。大変感謝しています。
- 職員全体で患者に寄り添いとても安心できる。
- 院内はいつも清潔で行き届いた環境です。
- ウェルコネアプリの診察お知らせがありがたい。



- ◆ 駐車場から病院まで遠く、駐車場入庫に時間がかかる。
- ◆ 駐車場が狭い。
- ◆ 眼科の待ち時間が非常に長い。
- ◆ 会計処理に時間がかかった。
- ◆ アナウンスの音が聞き取りにくい。

看護師特定行為研修

5期生の研修が修了しました



カテーテル挿入の指導を受ける研修生

特定行為とは、医師が行っている医行為の一部を看護師が行うものです。院内外の看護師16名を対象とした研修が3月に修了しました。修了者がそれぞれの医療施設で患者さんにタイムリーな医療を実施できるよう、阪大病院は医療人の育成に取り組んでいます。

令和7年度 優秀標語表彰式

今年度の標語が決定

接遇・マナー向上を目指して



2月25日、病院長室において、野々村病院長から3名の優秀標語作成者に表彰状と副賞が授与されました。患者サービス検討委員会では、職員の一人ひとりが患者さんの立場に配慮できるように努めるとの趣旨で、接遇・マナー向上に関する標語を掲げております。このたび、院内で標語を募集し、患者サービス検討委員会で検討した結果、次のとおり優秀作品を決定いたしました。

4～6月期

「日頃から 手洗い・消毒 習慣に」
(リハビリテーション部 言語聴覚士 松崎 文香さん)

7～9月期

「よく聴いて 心も傾け 寄り添おう」
(医事課 医事係 川村 悠さん)

10～12月期

「ありがとう 多忙な中にも 感謝あり」
(薬剤部 森崎 綾さん)

1～3月期

「多職種と 話して築こう 信頼関係」
(リハビリテーション部 言語聴覚士 松崎 文香さん)

令和7年度

「病院教授」の称号付与について

病院教授の称号は、大阪大学医学部附属病院における診療・研究・教育の充実のため、特に臨床面で優れた業績が認められる者に対して付与しているものです。

令和7年度は下記の19名に「病院教授」の称号を付与することを決定しました。

番号	診療科等名	氏名	職名
1	循環器内科	大谷 朋仁	准教授
2	腎臓内科	水井 理之	准教授
3	糖尿病・内分泌・代謝内科	西澤 均	寄附講座准教授
4	呼吸器内科	武田 吉人	准教授
5	免疫内科	西出 真之	講師
6	心臓血管外科	山内 孝	特任准教授(常勤)
7	消化器外科2	黒川 幸典	准教授
8	小児外科	渡邊 美穂	准教授
9	眼科	松下 賢治	准教授
10	皮膚科	種村 篤	准教授
11	神経内科・脳卒中科	奥野 龍禎	准教授
12	神経科・精神科	吉山 顕次	准教授
13	脳神経外科	押野 悟	准教授
14	産科婦人科	澤田 健二郎	准教授
15	小児科	宮村 能子	准教授
16	泌尿器科	河嶋 厚成	准教授
17	放射線部	巽 光朗	准教授
18	がんゲノム医療センター	佐藤 太郎	准教授
19	未来医療開発部未来医療センター	岡崎 利彦	特任准教授(常勤)

※上記の称号付与者の職名等は令和7年4月1日現在のものです。

新

診療部門長等
ごあいさつ



こだま みちこ
小玉 美智子

●産科婦人科診療科長

このたび産科婦人科長を拝命しました。産科婦人科では全ての女性の健康を支えるため、小児から高齢の方まで幅広い年齢層を対象に、月経関連疾患、妊娠・出産、不妊生殖治療、良悪性腫瘍等、多岐にわたる診療を行っています。また他診療科と連携し、有合併症例、治療困難例に対して新規診療の開発・実施に取り組んでいます。統合診療棟では産科診療のセミオープン化を推進し、より多くの方に安全安心な出産を提供してまいります。(令和7年1月1日就任)



さかた やすし
坂田 泰史

●診療支援センター長

新しい統合診療棟の開設に伴い、阪大病院の外来および入院業務が大きく変わります。それに伴い、診療支援の仕組みを抜本的に改革するため、診療支援センターを開設いたしました。患者さんのサポートはもちろんのこと、医療従事者の働き方改革にも貢献できるよう、医師事務作業補助者の業務を中心に、診療支援業務の充実を図ってまいります。なにとぞ、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。(令和7年2月1日就任)

●遺伝子診療部長

遺伝子診療部は、染色体や遺伝子の変化による先天性疾患など、遺伝に関わるあらゆる相談に対応することを目的として、遺伝カウンセリング外来を中心に活動しています。また遺伝カウンセリングには臨床遺伝専門医、臨床心理士、認定遺伝カウンセラーなど複数のスタッフによるチームアプローチを基本としています。遺伝医学的な問題について、心理的・社会的な対応も行っていますので、お気軽にご相談ください。(令和7年4月1日就任)



とみやま のりゆき
富山 憲幸

●放射線科部門長

放射線科部門は様々な高精度の診断機器、治療機器を使用して、画像診断や治療を行っており、放射線診断・IVR科、放射線治療科、核医学診療科の3診療科で構成されています。放射線診断・IVR科では、CT、MRIなどの画像診断と画像誘導下で行う局所治療(IVR)を行っており、放射線治療科では、悪性腫瘍に対して、定位照射などの高精度放射線治療を行っています。また、核医学診療科では、放射性同位元素を使用した核医学診断・治療を行っています。今後とも、正確な診断・治療を提供することにより、患者さんの診療に貢献したいと考えております。(令和7年4月1日就任)



みやがわ しげる
宮川 繁

●バイオリソースセンター長

このたび、バイオリソースセンターのセンター長を拝命しました。阪大病院では、各診療科において、再生医療の基礎研究、臨床応用が行われると同時に、「がん生殖医療」にも取り組んでおり、多数の検体を保存しています。今後の医学の発展には、細胞、組織を長期保存することのみならず、医療情報と関連づけていくのが重要な課題かと思ます。本センターでは、長期保存の安定した管理、そして臨床情報とのひもづけを行い、医学の発展に寄与していきたいと思ます。(令和7年4月1日就任)



ふくしま けんたろう
福島 健太郎

●化学療法部長

このたび、化学療法部長を拝命いたしました福島健太郎と申します。がん化学療法はこれまでの殺細胞性抗がん剤が主体の治療から、より負担の少ない抗体療法、分子標的療法が主体となってきております。免疫チェックポイント阻害剤や二重特異性抗体など、さらに重要な新薬も続々使用できるようになりました。引き続き通院でこれらの治療を安心して受けていただけますよう、尽力してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。(令和7年4月1日就任)



きしま はるひこ
貴島 晴彦

●脳卒中センター長

脳卒中センターセンター長を拝命いたしました貴島晴彦です。近年、脳卒中医療は大きく発展しております。脳卒中になる前、なった時、なった後とそれぞれの局面で適した治療が開発され臨床に用いられています。また治療だけでなく、それぞれの患者さんに合わせた社会資源の活用も広がっています。脳卒中センターではこれらを統合し、地域の脳卒中医療に貢献いたします。(令和7年4月1日就任)



かわむら あつし
川村 篤

●事務部長

このたびは、大阪大学医学部附属病院事務部長の重責を担うこととなり、身の引き締まる思いです。伝統と実績のある本院が、「Futurability待ち遠くなる未来へ。」のコンセプトのもと、統合診療棟が開院します。新たな時代を迎えるにあたり、その一翼を担えることを光栄に思います。患者さん、医療従事者の方々にとって快適な環境を整え、より良い病院経営に貢献できるよう、全力を尽くす所存です。どうぞよろしくお願いいたします。(令和7年4月1日就任)



下村伊一郎
栄養マネジメント部長
おすすめ

スマイル御膳

メニュー(一例)

- グリーンカレー
- 焼き野菜盛り合わせ
- コールスローサラダ
- ターメリックライス
- 桜ゼリー



例年、下村伊一郎栄養マネジメント部長のおすすめ御膳は、カレーをテーマにして好評をいただいています。今年は、ほうれん草を使ったグリーンカレーを入院患者さんにお届けしました。スパイスを利かせたグリーンカレーは「食欲が落ちていたけどカレーは食べられた」「代わり映えがあって良かった」「パンチが利いていて美味しかった」など、大変喜んでいただきました。また、春の訪れを感じさせる桜をイメージしたデザートやランチョンマットにも「見た目が華やかでいつもより食事が進んだ」「目も心もお腹も大満足」といった嬉しい感想をいただきました。今後も、患者さんに笑顔になっていただけるような食事作りに取り組んでまいります。

PHOTO ホスピタルミニ・ニュース TOPICS

市民公開フォーラム「がんゲノム医療の現状と今後の展望」

令和7年 2月22日(土)



司会: 化学療法部 部長 水木 満佐央

- ① 固形がんにおけるがんゲノム医療の現状と今後の展望
② 血液がんにおける新規遺伝子パネル検査
③ ゲノム情報を知って家族のがん予防につなげよう

動画はこちら



本院では厚生労働省による「がん診療連携拠点病院機能強化事業」の一環として、一般の方々を対象にがん診療に関する様々なテーマについて市民公開フォーラムを開催しています。

参加された方からもっと広く発信をして欲しい、もう一度聞きたいとのご意見を多数いただきましたので、阪大公式YouTubeで公開しました。ぜひご視聴ください。

未来医療フォーラム 講演動画を再公開

貴島晴彦脳神経外科長、川崎良AI医療センター副センター長、武田理宏医療情報部長による本院のAI×DXで変わる新病院についての講演を申込者限定でWEB配信しました。



令和6年度 ホスピタリティ賞 表彰式



令和7年 3月18日(火)

ご意見箱に寄せられた謝意の多かった部署を表彰しました。

- 西8階病棟 乳腺外科、形成外科、皮膚科
栄養管理室
東5階病棟 婦人科

第31回 阪大病院がんサロンを開催しました

令和7年 2月17日(月)

がん看護専門看護師による「治療中に頑張る血管のななし」をテーマにした講演会を開催しました。



小児医療センター 病室で雪遊び



入院中の子どもたちに、「そらぶちキッズキャンプ」から「雪の贈り物」が届きました。子どもたちは、遠く離れた北海道に降り積もったパウダースノーの感触を楽しみ、雪だるまやかまくらを作って遊んだり、おやつを冷やしたり、雪の上に絵の具で絵を描いたり、思い思いに雪遊びを楽しみました。

放射性薬剤を用いた診断で使用する装置

PET/CT:3台(半導体PET/CT:1台)

約2500件/年

SPECT/CT:4台(半導体SPECT/CT:2台)

約2500件/年



放射線治療病室

アイソトープ治療(Lu-177やI-131製剤)では周囲の人への被ばくを防ぐために、退出基準を満たすまでの一定期間、東3階病棟の放射線治療病室への入院が必要

個室で、トイレ、シャワー、洗面台が完備
テレビ、冷蔵庫、電子レンジ、ポットが装備
無線LAN(Wi-Fi)も無料で利用可



一般核医学検査では、SPECT/CT装置のうち2台に先進的な半導体装置を有し、高性能かつ低被ばくでの定量的なSPECT/CT撮像が可能で、これにより、脳、心臓、肺、肝、腎に加え、ラジオアイソトープ治療を含む

また、特殊PET検査として、O-15ガスPETを用いた定量的な脳血流計測も保険診療で行っています。昨年度からは、新たに保険が承認されたアルツハイマー病による軽度認知障害または軽度の認知症が疑われる患者さんに対するアミロイドPETや初発の悪性神経腫瘍が疑われる患者さんの腫瘍を可視化するアミノ酸PETの評価も開始しています。

核医学診療科

核医学診療科では、放射性薬剤を用いた診断とアイソトープ治療を担当しています。核医学診断では、放射性薬剤を投与し、その体内分布を画像化します。これにより、臓器の機能評価やがんの診断を行います。対象疾患は、心臓、脳、悪性腫瘍、呼吸器、消化

放射性薬剤投与し 臓器評価やがん診断
アイソトープ治療 広がる保険承認、高度医療

器、腎尿路系、内分泌疾患、骨関節など多岐にわたります。当科では、最新のPET-CT装置(3台)とSPECT-CT装置(4台)を活用し、各診療科と連携しながら質の高い医療を提供しています。PET診断では、主にF-18 FDG(ブドウ糖に類似した放射性医薬品で、がん細胞や炎症細胞が多く取り込む特徴を

がん治療の分野でも有用であり、利用促進に力を入れています。アイソトープ治療では、東3階病棟、放射線治療科、糖尿病・内分泌・代謝内科や消化器内科を代表とする各主科と連携し、現在、骨転移のあ

新薬で進む肺がんの「個別化治療」

連携深める 呼吸器外科 呼吸器内科



写真①病棟多職種カンファレンス ②呼吸器カンファレンス



呼吸器センターは、呼吸器外科と呼吸器内科が連携し、呼吸器の病気について診断から手術、治療までを一貫してスムーズに行える体制として、2012年4月にオープンし

ました。肺がんについては近年、新薬の登場によって患者さん一人一人に適した「個別化治療」が大きく進んでおり、緻密な連携を生むセンターの重要性はますます高まっています。呼吸器センターは、肺がん

の新たな治療は外科療法、化学療法、放射線療法が主です。本院は呼吸器外科、呼吸器内科に放射線治療科も含め、さまざまな療法を組み合わせた集学的治療を進めています。近年は、がん組織の遺伝子を調べて有効な薬を選ぶ分子標的治療や、患者さんの持つ免

や転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、間質性肺炎、気胸などさまざまな病気を診療対象としますが、最も患者数が多いのは肺がんです。呼吸器外科では年間約450件の全身麻酔手術のうち肺がんは160件を占め、呼吸器内科でも治療入院の約6割が肺がんです(いずれも2023年度)。特に80代以上も含めた高齢の患者さんが増える傾向にあり、今後その傾向は続くと考えられます。肺がんの治療は外科療法、

治療の適用には、患者さんの状態やがんの進行度、免疫療法が効くかどうかを示すバイオマーカーの数値などを総合的に判断する必要があります。呼吸器センターは毎週1回、両科の医師が最新の知見や意見を交換し、治療方針などを決めるカンファレンスを開いています。それとは別に、呼吸器疾患専門の看護師や理学療法士・作業療法士も交えた多職種カンファレンスも毎週開いています。患者さん一人一人に合わせたケアを提供することに、力を注いでいます。

「」の新設を計画しています。当科では、基礎科学(理学研究科など)や加速器施設(核物理解析センター)と医学系研究科・医学部附属病院が連携し、新たな核医学診断薬やアイソトープ治療薬の開発にも取り組んでいます。

令和6年度 大阪大学賞を受賞
高度救命救急センター
業績名
災害時・平時を問わず「いのちを救う」挑戦と実践

高度救命救急センターが令和6年度の大阪大学賞を受賞しました。2024年元日の能登半島地震発生直後に災害対策本部を立ち上げ、病院各部署の機能を確認し安全を担保するとともに、DMAT4隊16名を派遣し、現地DMAT活動拠点本部で部長として指揮を執りました。また、機能停止した施設の利用者を救出し搬送調整を行う一時待機ステーション

病院ボランティア 「ふれ愛」
ご応募お待ちしております
本院では、ボランティア活動をしていただける方を広く募集しています。病院ボランティアは、外来や入院中の患者さんのために、温かい活動をしていただく重要な一部門です。また、職員の目の届きにくい部分についてご指摘いただく貴重なご意見役とも考えています。特別な資格は必要ありません。どなたでも参加できます。詳しくは阪大病院HP「ボランティアの募集」をご確認ください。

https://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp/recruit/volunteer.html